

神戸市と新産業  
創造研究機構

## 「製造AIと切削加工 自動化」でセミナー

神戸市および新産業創造研究機構（NIR）は8日、神戸国際展示場の会議室で国際フロンティア産業メッセ併催セミナー「産学連携の挑戦、製造AIと切削加工完全自動化がもたらす製造業の未来」を開催、ソフトウェア設計製造のアルム（石川県金沢市）と神戸大の取り組みについて紹介した。

セミナープログラムは2件。

まず、自動化装置・アルム社長の平山京幸氏が「アルムが目指すスマートファクトリー構想実現への道」をテーマに、NCプログラム自動生成から完全自動マシニングセンタへの一連の流れを説明し



平山アルム社長  
①と西田神戸大  
院准教授

た。

国内の製造現場では生産の多品種少量化が進み、切削加工の製造コストの50%をNCプログラム作成が占めるとの課題がある。平山氏は、同社の「ARUMCODE」が「CADデータ高速形状解析」「ねじ・リーマなど加工種類の識別・割当」「切削条件アルゴリズムによる最適化」（いずれも特許出願中）などに関しヒトに代わりAIが作業化することでこれらの課題が解消されるとした。

「ARUMCODE」は今年7月からサブスクサービスを開始、より身近になったとも話した。「ARUMCODE」の魅力的な3機能（ライブ러리機能、ポストプロセス作成、他社ソフトとの連携）が、保守メンテナンス料0円、初期設定費用0円で利用可能となった。

2件目の講師は、神戸大学大学院工学研究科准教授でアルムCEO・BESTOWSのCEOも兼務する西田勇氏。「大学研究者が奮闘する研究成果の社会実装の歩み」とのテーマで講演。西田准教授は平山アルム社長との出会いに触れた後、事業化の壁（魔の川△実現可能性▽、死の谷△再現性▽、ダイウインの海△市場性▽）について具体的に説明。「現場はまだまだアナログ。NCプログラムの生成のニーズはある」と強調した。